



平成30年4月
第41号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
村木 央 明
編集者
広報担当
織 田 利 彦

第45回 総会・懇親会報告

高35回 糸井 真由美

あいにくの小雨となった10月28日(土)に第45回首都圏段戸会総会・懇親会がアルカディア市ヶ谷において開催され、214名の会員、来賓の方々が集まりました。総会は、村木央明会長(高19回)の挨拶に始まり、細井岡高同窓会会長、竹下校長先生からお言葉を賜りました。



竹下裕隆学校長

また、改正個人情報保護法が全面施行されたことを受け、事務局より会則に条文追加の説明があり、承認されました。



細井土夫岡高同窓会長

また、改正個人情報保護法が全面施行されたことを受け、事務局より会則に条文追加の説明があり、承認されました。



永田(大岩)典子先生

魅力と奏でる喜び」と題し、作曲家・桃井聖司さん(高38回)と岡崎混声合唱団東京支部のコラボレーションを中心に、指揮者・苦米地英一さん(高48回)とサクソフォン奏者・柳下柚子さん(高64回)を交えての合唱や語りという興味深いものでした。富田勲さん(高3回)作曲の「ジャングル大帝」テーマ曲や、合唱部でお馴染みの平田聖子さんの「出逢い」を(高30回)作曲の「出逢い」を楽しみました。苦米地さん作曲の「混声合唱のための『風』」



藤原肇先生

今回は、レクチャーコンサート「合唱音楽の魅力と奏でる喜び」と題し、作曲家・桃井聖司さん(高38回)と岡崎混声合唱団東京支部のコラボレーションを中心に、指揮者・苦米地英一さん(高48回)とサクソフォン奏者・柳下柚子さん(高64回)を交えての合唱や語りという興味深いものでした。富田勲さん(高3回)作曲の「ジャングル大帝」テーマ曲や、合唱部でお馴染みの平田聖子さんの「出逢い」を(高30回)作曲の「出逢い」を楽しみました。苦米地さん作曲の「混声合唱のための『風』」



鈴木弓子先生



川喜田隆司先生

ではイタリア仕込みの苦米地さんの指揮に合わせた合唱が心に沁みました。南郷孝さん(高19回)作曲の「伊豆の国」(歌・五木ひろし)の演奏では柳下さんのこぶしの効いたサクソスの音色が素敵でした。途中に流れたインタビュー(平田さん、近藤恵子先生、南郷さん)は、できれば直接お聞きしたいような楽しい内容でした。最後は桃井さん作曲の音楽劇「銀河鉄道の夜」より「夜空に輝く星たちよ」で締めくくられ、和やかで楽しい時間はあっという間に過ぎました。久しぶりに歌う校歌でしたが、レクチャーを受けたお蔭で皆さん声がよく出ていました。



岡崎混声合唱団東京支部
サクソフォン 柳下柚子さん(高64回)



客演指揮
苦米地英一さん(高48回)



講演・指揮
桃井聖司さん(高38回)

いける連鎖に感動すら覚ええます。今回は撮影班としてお手伝いさせていただきました。毎年この会を心待ちにし、懇親会で楽しみに集う皆さまの笑顔が印象的で、私も幸せな気持ちになることができました。

第46回首都圏段戸会総会・懇親会予定

〔日時〕 平成30年10月27日(土) 13:00~17:00

〔場所〕 アルカディア市ヶ谷(私学会館) ……JR、地下鉄 市ヶ谷駅から徒歩2分

古稀年次代表の一言

高18回 清水 久雄

昭和38年4月、桜花が爛漫と咲き誇る中、同期495名は入学式を迎えた。将来への夢を胸に、向学心に燃えた真面目で優秀な生徒が多く、良い刺激を受け勉学に又クラブ活動に励むことが出来た。先生方は皆熱心で授業中は集中させられた。しかし個別に話をすると、生徒に対する温かい気持ちの伝わってくる方が多かった。



古稀年次の皆様（筆者は中央リボンの方）

一年生の春の遠足は鳳来寺山への参詣であった。飯田線で本長篠まで行き、田口線（現在は廃線）に乗り換え鳳来寺駅で下車した。駅でワイワイ・ガヤガヤ大騒ぎしていたら、引率の先生が「静かに！ちゃんと整列しなさい！それでも岡高生か！こんなことをお客さん達の前で言うのは実に恥ずかしい！」と大きな声で言われた。それを聞いていたお客さんたちがどっと大笑いし、やがて生徒達にも先生方（叱ったご本人も）にも笑いの渦が拡がった。今でも時折思い出す愉快な出来事であった。当時は皆元気に溢れていた。私も友人4人と寺への長い石段を駆けて登った。それでも脚も痛まず、息も切れない

かった。（それが今では…）

さて首都圏段戸会であるが、高18回生の出席状況は数年前まで大変淋しいものであった。1人の女性が辛うじて座を守ってくれていた。やがて彼女が個別に電話をして出席者を増やして行った。古稀対応年次だった総会には14名もの同期生が参集した。不思議なもので、高校時代あまり交遊の無かった人とも、何となく面影が甦ってきてたちまち話が弾みだす。懇親会に続く二次会の最後には皆で「高校3年生」を高吟した。家路に就く頃には身体の中を高校時代の爽やかな風が吹き渡っていた。最後に楽しい場を設けていただいた首都圏段戸会の事務局の方々の御尽力に心より感謝申し上げます。

総会出席者の一言

高11回 太田 栄之

前任の中根淳君（高11回）に頼まれて、こんど世話人を仰せつかりました。それまで段戸会との関わりは、5年以上前に新規事業の起業体験を松尾さん（高44回）とともに講演をさせて頂いたくらいで、ほぼご無沙汰でしたが、あらためて今回段戸会のHP、会報誌、新聞記事をめくってみました。それは11回生の私の時代の岡高の古いイメージを一変させるものでした。広範な分野―教育界、産業界、官界、政界―などの現役岡高卒業生達が作り出している世界は、まあすごい社会への貢献は大変なものです。そのような予備知識を携えて、今回の総会に出席しました。レクチャーコンサート（桃井さんの講演、苦米地さんの指揮、岡高



筆者は左から2人目

OBの岡崎混声合唱団によるヴェルディ等の楽曲）、最後に出席者全員による校歌合唱で、ちょっと大げさですが、故郷三河のなつかしき、ゆかしき、岡高のアイデンティティのようなものがこみ上げて来ると言えます。昨今人生100年時代と謂われております。仕事に趣味に、これからの長い人生を有意義に歩むためにも、段戸会との関わりを皆が大切にすることが肝心であり、それで会がより充実していくであろうと期待しております。

高27回 長田 光雄

高27回の世話人でもあり、毎年出席させていたいております。総会での役割は会計を務めており、受付の奥で背中を向けているのが私です（笑）。ここ数年は、段戸会の場以外にも同期で時折は懇親会もあるのですが、やはり何年も会っていない同期と総会で出会うことは楽し



筆者は左から2人目

みです。今回は林野庁長官に就任された沖修司さんが出席され、同期のテールでは久しぶりの旧交を温める会話が交わされていきました。また、講演会も毎年の楽しみですが、今年のレクチャーコンサートは特に秀逸で、母校の出身者が芸術分野でも大いに活躍されている印象を強く受けました。今回、毎年出席されていた池田一三さんが直前に逝去されたことが誠に残念でなりません。首都圏段戸会における諸先輩、後輩との集いは、自分の中に眠っている母校や郷里の思い出を懐かしく呼び起こすきっかけでもあり、今後も出席を続けてまいりたいと思っております。

高31回 石田 満理

三年前に会社の後輩に誘われて初めて出席した総会でしたが、その後は出張のタイミングに重なって出席できず、二年ぶりの参加となりました。感想としましては、取分け若手の参加者の多さに圧倒されました。東京の真ん中で、心地よい三河弁のイントネーションに囲まれての懇親会には非常に心和むものがあります。また、初めてのお会いした方とも共通の話題に事欠かず、会話中に意外にも大学の同窓の方や、東京における勤務先が



筆者は右から2人目



筆者は右側

毎年の式典に参加、と言ったのが通例となつてい。総会に於ける楽しみの一は、やはり、各分野の一線で活躍されている卒業生の講演だ。

高40回 大田 武
毎年参加させて頂いている首都圏段戸会総会。知人に誘われるがまま、初めて足を運んだ日は、もはや10年前の事となった。最近では会計係を仰せつかるまでになり、先ずは受付業務をお手伝いし

ご近所の方も現れて驚きがありました。今回の講演会はレクチャーコンサートという事で、指揮者の桃井さんを始め、岡崎混声合唱団東京支部の皆さん、出演の皆さんには相当な準備、練習をされたのでしよう。完成度が高く、皆さん楽しむことができたと思います。また、コンサートの合間には近藤恵子先生、平田聖子さん、南郷孝さんのビデオ出演もあり、新しい映像手法を取り入れて頂いて、多くの情報を共有できたと思います。最後にありますが、このような楽しい会の企画・運営にご尽力頂きました事務局、世話人の皆様、ありがとうございました。個人的にも次回はより多くの同期と参加できるような連絡を取り合う準備を開始したいと考えています。



筆者は後列右から4人目

高58回 岩間 亮
場の上司が岡崎高校と縁があったことや、後輩が首都圏段戸会に深く関わっていたことが初参加の後押しになりました。現在、私は大学で研究しています、

高58回 岩間 亮
断に進んで行く先輩・後輩の姿に勇気付けられた一日であった。

岡高卒業生の多士済々ぶりには毎年驚かされるが、今総会における講演ほど、それを実感したことは無かった。さて、その内容とは、岡高卒業生の音楽関係者を一同に集めた、レクチャーコンサートという大変興味深いものであった。私が過去に参加した総会では類のない分野の講演であったが、その内容たるや来場者全員参加型の実践的なもので、私のような芸術や音楽に疎い者にとつても分かり易いものであった。そこでは、音楽の素晴らしさに留まらず、コーラス部の偉業に垣間見える、音楽や芸術を大切にして来た岡高の歴史の深さや、その懐の深さなどを改めて感じる事が出来た。多様性の時代と言われるが、我が母校の貴ぶところ自由な精神を有し、愛し信じた道を不断に進んで行く先輩・後輩の姿に勇気付けられた一日であった。

高67回 鈴木 達也
岡崎混声合唱団東京支部として首都圏段戸会総会での演奏のお話をいただいたのは昨年3月のことでした。それから桃井さんと打ち合わせを重ね、岡高の大先輩方の作られた曲を歌わせていただけたことになりました。「歌うとは訴うことである」を信念として活動している私たちにとって、岡高の大先輩方の曲を歌えることは大きな喜びでした。岡混東京支部は普段10名程で活動しており、総会では団員に加えて首都圏在住

高校在籍時のスーパーサイエンス部での経験が現在の私を形成していると言っても過言ではありません。嬉しいことに卒業後10年間にわたり、理科の先生方に声をかけ続けて頂き、夏に高校で行われる課外実験にTAとして毎年参加させて頂いておりました。これらのことから、岡崎高校は単に「母校」という言葉だけでは表現できない存在になっています。残念ながら、就職後はその時間は取れなくなりりましたが、思わぬ形で今年も岡崎高校を訪問でき、まだまだ縁が続くことを願っています。そんな私ですが、首都圏段戸会総会・懇親会の存在を知ったのが数年前、ようやく参加することが出来ました。様々なバッググラウンドを持つ方とお話でき、大きな刺激となりました。私は積極的に話に行くというタイプではないのですが、そんな私でも有意義な時間を過ごすことが出来ました。今後も参加させて頂ければと思います。岡崎高校という共通点を持った方々との幅広い関係を大事にしたいと思っています。

こともあり不安でしたが、指揮の桃井さん、苦米地さん、サクソフォンの柳下さんと一緒に演奏でき、温かな雰囲気の中でとても楽しく歌わせていただくことができました。懇親会の方でも、各方面でご活躍されている先輩方とお話させて頂いた機会があり、とても有意義な経験となりました。同じ高校出身というつながりによって心の距離が縮まるように感じたのはとても不思議でしたが、それこそがこの会の醍醐味なのだと思います。若手が少なかったことが寂しかったので、次回は是非より多くの同期とともに出席できた



筆者は中央

のコーラス部OBも交えて演奏させていただきました。私自身、上京して3年目で初めて総会に参加させていただき、どのような雰囲気かわからない

のコーラス部OBも交えて演奏させていただきました。私自身、上京して3年目で初めて総会に参加させていただき、どのような雰囲気かわからない

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。
公式ホームページ <http://dandokai.o.oo7.jp/>
首都圏段戸会 検索

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

第45回 首都圏段戸会総会・懇親会出席者 (平成29年10月開催)

(岡高同窓会長)	細井土夫		佐口正司	清水久雄		菅伸介	古澤昌宏	
(岡高校長)	竹下裕隆		杉山孝博	高橋成宜	(高38回)	内田力	柴田哲良	
(恩師)	永田典子	川喜田隆司	幡本裕	細井和昭		杉江剛	桃井聖司	
	藤原肇	鈴木弓子	牧野友厚	柵木孝一	(高40回)	大田武		
(高2・中51回)	青山敦夫	石川耕春	森本哲男	山内恵	(高41回)	中鉢朋子		
	服部登		山本俊彦		(高42回)	杉山崇	長野麻子	
(高3・併23回)	伊藤芳枝	宇津野隼千	(高19回)	近藤陽一	都築正行	(高44回)	松尾直樹	松田晴光
	小澤一郎	加藤正義		福島安史	宮崎収兄	(高46回)	浅井太郎	石川照代
	鏑木道子	久保雅之		村木央明			大川博	
	高木次男	丹羽鼎	(高20回)	天野隆太郎	安藤進	(高47回)	小島義博	杉本いづみ
	蜂須賀芳昭	松井淳子		遠藤昇	小田英一		田中宏卓	又木奈菜子
	柳澤玖枝			北野光敏	清水徹	(高48回)	土田徹	苫米地英一
(高6回)	有馬弘政	長瀬けい子		辻村貴典	矢吹清		藤井晋也	
	市川毅	近藤衛		山本良二		(高50回)	鳥居福代	
	斎藤悦子	杉山修	(高21回)	足立純一	阿知波茂樹	(高52回)	今泉勇	近藤佳子
	是津定利	高橋里恵子		渥美忠男	生駒仁志		清水雄太	林洋平
	永田綾子	羽谷允		内山田邦夫	齊藤布美江	(高53回)	辻内直子	
	吹抜敬彦	森周子		清水照雄	徳田登	(高54回)	安藤康伸	加藤直也
(高8回)	杉浦嘉久	高橋道人		兵藤幸治	丸川美雪	(高57回)	川口敦子	
	田中厚生	外村仁		矢田金市	山田俊文	(高58回)	石川航己	岩間亮
(高9回)	岡田敏夫		(高22回)	上田洋子	中村賢治		鳥山順丘	松藤優子
(高10回)	宇佐美忠利		(高23回)	清水郁夫	野々山浩	(高59回)	等若菜	
(高11回)	青木かゑ子	梅村豊子	(高25回)	明保治男	稲垣智子	(高60回)	酒井枝里香	鳥居ほのか
	太田栄之	永田宏		戸田讓三	戸田妙子		本多健太郎	
	服部豊治		(高26回)	織田利彦	日高克二	(高61回)	鈴木貴之	
(高12回)	稲垣早苗	神谷保	(高27回)	沖修司	長田光雄	(高62回)	粟津文香	大山なつみ
	杉浦宏明	堤三郎		岸洋平	山崎正枝		横井徹	
	鶴田文男	星野陽一	(高28回)	磯谷正行	太田也寸志	(高63回)	宇野瑠璃子	坂井李奈
(高13回)	神道千秋	鈴木功一		三枝奈芳紀	酒井邦彦		下村夏穂	白木伶治
	藤田訓弘	本多正之		長坂光司	日高和江		柳下柚子	
(高14回)	磯尾進	磯村澄江		日高俊郎	藤井哲	(高64回)	堀之内航一	
	太田眞澄	糸田輝義	(高30回)	石川定雄	松井伸介	(高65回)	小野康平	都築敬
	中島綾子	成瀬勝彦		米津智徳			横字史年	
	水谷鏡子		(高31回)	石田満理	高原正之	(高67回)	近藤俊太郎	鈴木達也
(高16回)	大山達雄	鈴木貞雄	(高33回)	木村敦	小出一典		高瀬大輔	
	鈴木勢津子	鈴木多恵子		鈴木祐子	田中寿	(高68回)	日下部健太	光崎遥
	鈴木弘恵	野村親信		山本守正			田中葵	富田佳秀
(高17回)	伊与田正彦	佐伯寛子	(高34回)	板谷敏正	井上由美子		堀内基弘	
	竹嶋栄子	中尾幸男		岩崎陽子	鈴木宏一			
	春名正彦	武藤隆子		安田峯次	吉村玲子			
	山田博子		(高35回)	石井敦	糸井真由美			
(高18回)	伊藤博邦	音部昌宏		小川美季	渋谷禎則			

出席者合計 214名

なぜこの仕事を
— キャリアアップ編 —

高46回 大川 博

1999年の4月に社会に出て18年が経とうとしている。現在の会社で3社目。いわゆるIT業界に、ずっといる。振り返るといくつかの流れが見える。それを紹介したい。

この業界に入ったのは学生時代にコンピュータとインターネットに触れたことが大きい。人とのコミュニケーションが苦手だった私は、コンピュータという指示に正確に応える(指示されたこと以外はない)ものに大いに惹かれた。一方で、優れたコミュニケーションの道具であるインターネットに触れそれまでとは違う出会いを楽しんでもいた。最初の会社はIBM、世界で初めてコンピュータを売った会社の子会社。2社目はコンピュータの小型化で有名になったヒューレット・パットカード。3社目の現所属先はクラウドコンピューティングを世に広めたセールスフォース・ドットコム。それぞれの時代の最先端を走った(走っている)会社に勤めて来ている。このIT業界の流れが一つの流れ。

実は1999年4月1日、つまり最初の会社の入社日にはすでに二度の転職をすることを決めていた。初日にして会社に不信感を持ったからだ。3年でスキルを付け会社を移り、次の会社で30歳くらいまで勤め、もう一度転職をするというのがそのとき決めたマイルストーン。最初の会社では基礎をつけ、次の会社で実績を手に入れると考えた。このキャリア



イベントでの講演の様子から

の流れが二点目。一つの会社にすべてを求めず、適切な経験を適切な場所で行うのが、重要な点だった。今思えば不信とは言え一方的な思い込みで舵を切ったものだが、実際のところお客様も含めまわりの人に恵まれ、運にも助けられ、自分自身のキャリアをうまく作れてきた。苦手なコミュニケーションから離れるためにコンピュータを選び、会社に対する不信を持ってスタートした社会人人生をここまで過ごしてみても理解したのは、人と人とのつながりの重要さだった。人がいなければどんな技術も活きない。インターネットの普及だって、ソーシャルネットワークサービスの広がりだって、人と人のつながりを技術が支えながら作ってきた流れなのだ。幸いこの流れにうまく乗れている。

一言で言ってしまうとこれまでの人生は楽しい。こう振り返られるのは、流れに逆らわずに来れたからだだろうと感じる。周囲には常に大きなうねりがあるのだが、うまく逆らわず流れを見て楽しんでいたいと思う。

高57回 川口 敦子

早稲田大学理工学部在学していた私はキャリアについて真面目に考えることなく過ごしていました。就職については「大手で転職がなくて残業が少ない会社で楽ちんOL生活がしたいなあ。お金持ちと結婚して辞めてもいいし。ま、どこから内定が貰えなかったら大学院に行けばいいや」くらいの甘い考えしか持っていないませんでした。当然のことながら、こんな女と結婚してくれる男性はいませんし、こんな女が大学院に進んでもろくな研究成果は出せません。当時の私に教え論じたいものです。

そんな私が入社したのは日系大手の保険会社。女性の働きやすさランキング上位に入る会社で素敵な同期に囲まれ、傍から見たら良い環境だったのではないかと思います。しかし、どうしても仕事にやりがいを感じられない。どんなにプライベートが充実していても、生活の大部分を占める仕事が充実しないと、本当の意味での充実感を得られないのだと思いました。そして何より、「仕事を頑張る」というライフスタイルが私に合っているということに気付き、転職を決めました。1社目の在籍期間は9ヶ月でした。

現在はエックスネットという、主に機関投資家向けのシステムコンサルティングを行う企業に勤めています。入社後コンサルタントとして4年半程度活動した後、管理部門での業務に携わり現在3年が経とうとしています。社員数180名程の東証



仕事が充実するようになると、それに比例するようになります。趣味のピアノや旅行を思い切り楽しんでいます

一部上場企業で、管理部門は6名での稼働。もちろん単純な事務作業等はアウトソーシングしていますが、それでもかなりの業務量をこなさなければいけません。経理、決算、広報、内部監査、総務、人事、労務管理…。シビアな環境ではあります。これ程多岐に渡る業務を任せて頂けること、コンサルタントとしての経験を活かせること、そして何より自身の成長を強く感じられることに喜びを感じ、日々業務に邁進しています。現在決算関連の私の業務は、決算短信や有価証券報告書の作成、株主総会の企画などがメインですが、近いうちに経営の根幹に関わる意思決定にも携われるように知識とセンスを磨いていきたいと思っています。

石の上にも三年、何事も我慢して続けていけばやがていつか成功を掴み取ることができるとも思いません。ただ、人生は一度きりです。努力を続けることは重要なことですが、どの舞台で努力をするかという選択も同様に重要なことではないでしょうか。学生や若手の方には、過去に囚われず、現在の自身を最大限に輝かせる舞台を見つけるための努力を惜しまず、日々歩んでいって欲しいと思います。

世話人リレーエッセイ

— 広報担当 —

高52回 近藤 佳子
「今度、広報担当の集まりがあるので来てみない？」

4年前のある日、世話人の先輩からお誘い頂いたことが、広報担当になったきっかけです。物心ついた頃から、ここの文系人生を歩んできたにも関わらず、文章を書くことがあまり得意ではない私は、一抹の不安を抱きながら、初めての編集会議に参加しました。

広報担当の主な業務は、今ちょうど手にとって頂いている「会報」を、年2回、春（4月）と秋（9月）に発行することです。会報の企画立案から原稿執筆依頼、校正、編集、発行までのプロセスを、現在は織田編集長（高26回）のもと合計8名（本号「平成30年世話人名簿」参照）で担当しています。

首都圏段戸会報の特徴は、現役の大学生から既に仕事を引退された方まで、読者層が極めて幅広いという点です。皆さんにとって少しでも有意義な会報にするためにはどうしたら良いか？定番企画のテーマに趣向を凝らしたり、新企画を検討したりと、毎回知恵を絞って進めています。

普段は主にメールで連絡を取り合い進めますが、年に2回、通常土曜日のランチ時間に、メンバー全員で都内のお店に集まり、編集会議を実施します。出来上がった初稿の文字校正、写真キャプ



年2回の編集会議の様子

ションの確認、次回会報の企画、執筆依頼等について相談します。はじめのうちはアジェンダに沿って話し合いを進めるのですが、段々と議論が白熱してくると、地元の懐かしい話から、農業・食の安全、IT、さらには日本経済の話まで、議題が脱線して大盛り上がり。大変楽しく刺激のなひと時なのですが、編集会議の内容がまとまらない…といったこともしばしばです（編集長いつもすみません…）。ただ、意外にもこういった雑談の中から新企画のアイデアが生まれることもあり本号で紹介されている「胃文化交流会」企画も、その一つです。こういった編集会議での交流や、原稿依頼を通して会員の皆さんと交流できるのは広報担当の醍醐味のひとつです。

平成2年（1990年）に発刊された首都圏段戸会の会報も、本号で41号を数えます。四半世紀以上に渡り執筆をしてくださった方々は数えきれませんが、オープンに、ご自身の仕事や生活体験を（時には失敗談も交えて）綴って共有頂けるのも、本学の同窓生向け会報の特権ではないかと思えます。末筆になります。この場を借りて今までご執筆頂いた方々に御礼申し上げます。

広報担当も随時募集しています！

胃文化交流会

胃文化交流会設立準備会 in 桔梗

高42回 長野 麻子
「会報のネタもマンネリ化してきたね」「広報担当として新たなコンテンツを生み出さねば」との若干不純な気持ちから、世代を越えた共通の言語としての「食」を囲んで交流し、それも愛知・岡崎高校



ほろ酔い加減で(ママは左から2人目)

にゆかりのあるお店を食べ歩く「胃文化交流会」の構想が生まれました。名付け親は村木会長（おやしぎヤグ？笑）。設立準備会は、長瀬さん（高6回）が経営する

おでんの名店「桔梗」へ。桔梗のおでんは、出汁のよくしみた大根、バラエティ豊かな練り物から、トマトの変わり種まで、何度食べても飽きのこない優しい味。故郷の丸石醸造の「徳川家康 大吟醸」がすすみます。長瀬ママのいつも素敵な笑顔で、愛知・岡崎にゆかりのある方々に長年愛される桔梗、皆様もぜひお立ち寄りください。また、胃文化交流会に参加してみたい方は、都築さん（高19回）までご連絡ください。

【桔梗】東京都港区芝大門2-1-18 GSハイム2F
TEL 03-3437-2564

第1回胃文化交流会

in MISO18ヶ月

高61回 鈴木 貴之
1月20日の1次会には高8回から高61回までの24人が集まり17時から20時頃まで代々木駅近くのMISO18ヶ月で開催されました。このお店は、豊田市の野田味噌商店が経営している店舗であり、榊塚味噌を使った味噌おでんや味噌かつなど愛知のソウルフードを堪能できるお店です。なんと、岡高OBの野田好成さん（高55回）が経営されており、岡高OBの活躍を実感することができました。1次会の後は、有志8人程度が集まり2次会が21時半頃まで行われました。参加者



野田さん(前列中央のイケメン)を囲んで



味噌カツ

の方の属性は多種多様であり、日常では中々交流する機会が無い方とお会いできました。最年長と最年少で生年に半世紀の差がある年齢幅の広さ、お仕事内容の幅広さ（理系職・文系職、サラリーマン・公務員・自営業）など、ダイバーシティに富む会でした。会話の内容も多岐にわたって行われました。紙幅の関係ですべてを網羅することは中々難しいですが、愛知県トーク、高校時代の思い出話、参加者の現況（ご家族、お仕事など）の3つの話題が頻繁に出ていたように思います。共通の話題が多いので初めて会う人とも会話が弾み、笑い声が絶えませんでした。美味しい料理を楽しみつつ、日頃は関わりたくないような人とお話できる機会として胃文化交流会はとても素敵な場です。皆様も、ぜひご参加頂ければ幸いです。

【MISO18ヶ月】東京都渋谷区代々木1-13-4 代々木プラウンビル1F
TEL 03-6276-0682

平成29年度 オープンキャンパス開催報告

高67回 松岡 駿

2017年8月5日、雨が降るんじゃないかといわれていた天気は、なんとかもってくれ、むしろそのおかげで夏にはそう日差しも強くなくて過ごしやすくなっている中、本年度も東京大学オープンキャンパスを実施しました。毎年恒例の研究室体験に参加した生徒を中心とした岡崎高校2年生に参加頂きました。今年はお昼頃からの開始でしたので、最初に学外のイベントスペースで軽食を食べながらの座談会を行いました。大学での授業形態や一人暮らしの生活、アルバイトやサークル活動についての話のほか、受験生時代に苦手科目をどう対処していたか、息抜きはどのようなことをしていたか、等の話をしました。座談会後は、本郷キャンパス内の案内です。赤門から出発して、赤門通り、図書館、安田講堂、御殿下グラウンド、理学部、工学部といった順番で一周しました。残念ながら、一部の施設が改修工事中でしたが、各施設や建物について、OB・OGが各々知っていることを話しつつ、追加の質問や個別の質問があればそれに答えていくという形で、お土産購入の時間もとりながら楽しく行うことができました。

今回、OB・OGのほぼ全員が初めて案内役を担当させて頂き、しかも僕を含め半数が駒場キャンパスの方に通っている状態でしたので、色々手間取ってしまう場面もありましたが、なんとか役目を果たすことができ、僕自身が岡高2年生



オープンキャンパス参加の皆様（筆者は後列右端）

の時に、この首都圏段戸会主催のオープンキャンパスに参加させて頂いたこともあり、その恩返しができたと思います。参加した岡高生が、今後の進路を考えていく際、このオープンキャンパスでの体験を参考にしてもらえたら幸いです。最後に、ご協力いただいた首都圏段戸会の皆様、引率していただいた岡崎高校の先生方、案内役をしていただいたOB・OGの皆様にお礼申し上げます（特に、引率の先生方には荷物番の方、大変お世話になりました）。ありがとうございました。

段戸サークル活動報告 「段戸山の会」のご紹介

高30回 石川 定雄

「山の会」は、山を、自然を、花を、温泉を、ご当地グルメを、お酒を、そしておしゃべりを皆で楽しむ会ですが、

2017年は、雨の多い年で、私たちの山旅も春・秋の4回とも、雨に打たれ風に吹かれながらの結構大変な旅になりました。それでも、メンバーは皆、次の山旅に行く気満々です。

春、三浦半島の鷹取山ハイキングの小さな旅から始まり、GW明けに筑波山と筑波温泉の日帰り旅、夏は北アルプスの立山とみくりが池温泉、秋は東北の栗駒山と須川温泉を旅しました。秋の山では、早朝に東京を出るのも大変だし、他にもちよっとした事情が有って、いっそのこと仙台で前夜祭をやろうという事になりました。飛びっきりの牛タンと地酒で、盛り上がりました。天気予報では、翌土曜日は夕方から雷に注意とあまり思わしくありませんでしたが、日曜は最高の天気になるという話で、皆上機嫌で解散しました。翌朝、登山口へ到着時点で既に辺りは曇り、風もあり、歩き出す準備の最中にととう雨まで降り出し、その後は1日中、



須川温泉出発時

雨、風に打たれることになりました。そんな中でも、時折ガスが晴れたりすると、ワツと声をあげるほど今は盛りの紅葉が目に見え込んできました。登頂を果たして須川温泉に下山し、熱い温泉で冷えた体も元気を取り戻し、重たいのにわざわざ担いできた日本酒、ウイスキー、ワインで、恒例の酒盛りも始まり、またいつものように翌日の行程、故郷の話、それぞれの岡高時代の話などが夜まで続きました。

翌日も天気の回復が遅れていたため、行程を周辺散策に切り替え早々に温泉に戻り、夕方のバスまでの時間を思い思いにゆったり過ごしました。後日、メンバーより、悪天候の中の辛い歩きも過ぎてしまえば忘れ去られ、むしろ良い思い出となっているという話がありました。私もそうですし、多分、他のメンバーもそうだったと思います。こんな山の会に興味をお持ち頂けたら、どうぞ、次の山旅にご参加ください。

段戸サークルのお問合せ先 皆さまの参加をお待ちしています！

- “段戸囲碁会” 幹事：藤田 訓弘（高13回）
kfujita@muc.biglobe.ne.jp
- “段戸音楽会” 幹事：石川 航己（高58回）
koki.ishikawa.49@gmail.com
- “段戸句会” 幹事：野村 親信（高16回）
nomurac@jcom.home.ne.jp
- “段戸山の会” 幹事：満江 信之（高15回）
nmitsue@ae.auone-net.jp
- “胃文化交流会” 幹事：都築 正行（高19回）
masa_tsuzuki2000@yahoo.co.jp

平成29年度 会計報告・監査報告

会計及び会計監査の方々のご尽力により、平成29(2017)年度 会計報告・監査報告がまとまりましたので、ご報告いたします。
 なお、会計報告・監査報告は、次回首都圏段戸会総会(平成30年10月27日開催予定)において、会員の皆様の承認を経て確定します。

貸借対照表

平成29年12月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額	金 額
I 資産の部		
通常貯金	1,956,110	
資産合計		1,956,110
II 負債の部		
未払金	0	
負債合計		0
III 正味財産の部		
正味財産		1,956,110
負債及び正味財産合計		1,956,110

収支計算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで (単位:円)

科 目	金 額	金 額
I 収入の部		
10月総会懇親会会費収入	1,142,000	
10月総会時運営協力金	273,000	
運営協力金	1,189,000	
寄付金	50,000	
受取利息	12	
当期収入合計		2,654,012
II 支出の部		
10月総会懇親会費用	1,351,815	
会報費用	963,481	
世話人会費用	78,570	
オープンキャンパス	36,220	
ホームページ維持費	17,496	
後納郵便料	44,871	
経費振込手数料	2,744	
運営協力金振込手数料	41,840	
当期支出合計		2,537,037
当期収支差額		116,975
前期繰越収支差額		1,839,135
次期繰越収支差額		1,956,110

監査報告書

首都圏段戸会の平成29年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成30年1月30日

会計監査 辻村 貴典

会計監査 戸田 謙三

平成30年 首都圏段戸会 世話人名簿

- (高2回) 服部 登
- (高3回) 丹羽 鼎
- (高6回) 有馬 弘政
- (高7回) 是津 定利
- (高8回) 杉浦 嘉久
- 田中 厚生 広報
- (高9回) 岡田 敏夫
- (高10回) 宇佐美 忠利
- (高11回) 太田 栄之
- (高12回) 永田 宏
- (高12回) 鶴田 文男
- (高13回) 成瀬 浩
- (高14回) 磯尾 進
- (高15回) 水谷 鏡子
- (高15回) 神谷 国広
- (高16回) 横井 昭親
- (高17回) 伊與田 正彦
- (高18回) 山田 博子
- (高18回) 伊藤 博邦
- 音部 昌宏
- 清水 久雄
- (高19回) 山内 恵
- (高19回) 都築 正行 会計
- 福山 透 情報

- 村木 央明 会長・広報
- (高20回) 天野 隆太郎 企画
- 辻村 貴典 会計監査
- (高21回) 小栗 恵子
- 山田 俊文
- (高22回) 上田 洋子 副会長・書記
- 中村 賢治
- (高23回) 野々山 浩 会計
- (高25回) 戸田 謙三 会計監査
- (高26回) 織田 利彦 事務局長・企画・広報
- (高27回) 長田 光雄 会計
- 岸 洋平 会計
- (高28回) 山崎 正枝
- (高28回) 酒井 邦彦
- (高30回) 米津 智徳
- (高31回) 石田 満理
- 岩間 由紀
- 高原 正之 企画
- (高33回) 小出 一典 企画
- (高34回) 板谷 敏正 副事務局長・企画・情報
- 井上 由美子 副事務局長・企画
- (高35回) 糸井 真由美
- 小川 美季 広報
- 菅 伸介 会員
- (高36回) 平松 理生

- (高38回) 中西 和幸 企画
- (高40回) 大田 武 会計
- (高41回) 中鉢 朋子 書記
- (高42回) 長野 麻子 広報
- (高44回) 松尾 直樹 企画
- (高45回) 筒井 貴之 情報
- 西浦 瑞恵
- (高46回) 朝岡 大輔
- 大川 博 広報
- (高47回) 杉本 いづみ 会員
- (高50回) 鳥居 福代 情報
- (高52回) 清水 雄太 情報
- 近藤 佳子 広報
- (高53回) 石井 貴大
- 辻内 直子
- (高54回) 安藤 康伸
- 岡田 尚博
- 加藤 直也 広報
- (高57回) 川口 敦子
- (高58回) 鳥山 順丘
- 石川 航己 企画
- (高59回) 嶋田 亘
- 等 若菜
- (高60回) 本多 健太郎
- (高61回) 鈴木 貴之
- 中原 慎子
- (高62回) 粟津 文香
- (高63回) 吉兼 峻史

編集後記

本号では前半で総会・懇親会に関する報告をさせていただきます。今回の総会では音楽家として活躍中の桃井さん、苦米地さんらをお招きし、岡崎混声合唱団東京支部とのコラボレーションが企画されました。この講演は出席された方々を大いに魅了したようで、当時の岡高時代を懐かしみ、涙も誘ったとのこと。後半は新たに企画した二つのトピックスを記載いたしました。その一つは世話人リレーエッセイです。まずは広報担当の近藤さんから発信をいただきました。今後、世話人の方にどんなふうないでいきます。二つ目は立ち上がったばかりの胃文化交流会からの報告で、第1号として会の発起人である長野さん、若手の鈴木さんから寄稿いただきました。これからどんな店が掘り起こされるか楽しみです。

さらに、昨今の転職事情を勘案し、キャリアアップについて取り上げました。小生の世代が就職したころは、オイルショックの後遺症で軒並み採用控えがあり、それでも終身雇用が当たり前のよう受け止められていました。それから40年ほど経った現在、就職人気ランキングをみると、時代の流れを改めて痛感するとともに、かつて某雑誌が企画した「企業の寿命30年」を思い出します。(織田)